血液等曝露後の感染症検査の受検及び抗 HIV 薬内服のための説明書

（被曝露者用）

処方薬がビクタルビ配合錠の場合

HIV 迅速検査の実施

□ この度発生しました血液等曝露事故について、あなたが HIV 感染予防を目的とした抗 HIV 薬の内服をすることの必要性を検討するために、あなたの HIV 迅速検査を実施する必要があります。

□ HIV 抗体が作られるまで 2～3 か月かかると言われています。真の結果を得るため、抗 HIV 薬服用後も、HIV 検査を複数回行うことになります。目安としては、事故発生直後、その 6 週間後、3 か月後です。

□ 抗 HIV 薬を選択する上で、また、労災保険の給付対象となるか判断する上で、必要であれば HBV 及び HCV の検査についても実施します。

□ HIV、HBV、HCV 検査等の結果は、あなたのプライバシー保護に十分配慮し、本人のみにお伝えします。また、個人情報については、当施設の個人情報保護方針に基づき適切に管理いたします。

抗 HIV 薬の内服

□ 針刺し等で HIV 陽性血液に曝露された場合の感染のリスクは 0.5～0.3%と、B 型肝炎や C 型肝炎の同じような曝露の場合の感染リスクに比べ 1/100～1/10 となりますが、0％ではありません。

□ 現在、感染が成立してしまった場合、治療によりエイズの発症を抑えることはできますが、治癒できるような方法は確立されておりません。

□ 感染後、できるだけ早く抗 HIV 薬を内服することで、感染のリスクを低下させることができます。

内服される抗 HIV 薬

□ 薬 剤 名：ビクタルビ配合錠（略名：BIC/TAF/FTC）

□ 飲 み 方：ビクタルビ配合錠１錠をできるだけ早く内服する。
以降、拠点病院の受診まで、１日１回ビクタルビ配合錠１錠内服する。

□ そ の 他：①併用注意薬もありますので、現在、内服している薬があれば、自院あるいは配置医療機関の医師及び薬剤師に確認をとるようにしてください。
②下記の「内服にあたっての注意点」の他にも、頭痛、めまい、悪心、消化器症状等の副作用が起こることがあります。

内服にあたっての注意点

下記について確認し、いずれか該当する場合は、拠点病院の専門医に内服について相談して下さい。

□ B 型肝炎患者であるかの確認
ビクタルビ配合錠は、B 型肝炎患者が内服を中止した場合、肝炎が悪化することがあります。

□ 腎機能低下があるかの確認
ビクタルビ配合錠は、腎機能の低下した方が服用すると腎機能障害が起こる可能性があります。
□ 妊娠の有無の確認
ビクタルビ配合錠は、妊娠中の投与における妊婦や胎児に対する影響は明らかになっていません。

内服後について

□ 内服継続の適否について判断、及び感染の有無を評価するために、早めに拠点病院を受診する必要があります。
□ 前述のとおり、感染の有無を評価するために、HIV 検査を複数回、受けることとなります。

説明日　令和　　年　　月　　日

説明者

血液等曝露後の感染症検査の受検及び抗 HIV 薬内服のための説明書

（被曝露者用）

処方薬がツルバダ錠およびアイセントレス錠の場合（令和９年１月まで）

HIV 迅速検査の実施

□ この度発生しました血液等曝露事故について、あなたが HIV 感染予防を目的とした抗 HIV 薬の内服をすることの必要性を検討するために、あなたの HIV 迅速検査を実施する必要があります。

□ HIV 抗体が作られるまで 2～3 か月かかると言われています。真の結果を得るため、抗 HIV 薬服用後も、HIV 検査を複数回行うことになります。目安としては、事故発生直後、その 6 週間後、3 か月後です。

□ 抗 HIV 薬を選択する上で、また、労災保険の給付対象となるか判断する上で、必要であれば HBV 及び HCV の検査についても実施します。

□ HIV、HBV、HCV 検査等の結果は、あなたのプライバシー保護に十分配慮し、本人のみにお伝えします。また、個人情報については、当施設の個人情報保護方針に基づき適切に管理いたします。

抗 HIV 薬の内服

□ 針刺し等で HIV 陽性血液に曝露された場合の感染のリスクは 0.5～0.3%と、B 型肝炎や C 型肝炎の同じような曝露の場合の感染リスクに比べ 1/100～1/10 となりますが、0％ではありません。

□ 現在、感染が成立してしまった場合、治療によりエイズの発症を抑えることはできますが、治癒できるような方法は確立されておりません。

□ 感染後、できるだけ早く抗 HIV 薬を内服することで、感染のリスクを低下させることができます。

内服される抗 HIV 薬

□ 薬 剤 名：ツルバダ錠（略名：TDF/FTC）、アイセントレス錠 400mg（略名：RAL）

□ 飲 み 方: 1 回目としてツルバダ錠　1 錠及びアイセントレス錠 400mg　1 錠をできるだけ早く内服し、その 12 時間後、２回目としてアイセントレス錠 400mg　1 錠を内服する。
以降、拠点病院の受診まで、12 時間毎に１回目と２回目を交互に内服する。

□ そ の 他：①併用注意薬もありますので、現在、内服している薬があれば、自院あるいは配置医療機関の医師及び薬剤師に確認をとるようにしてください。
②下記の「内服にあたっての注意点」の他にも、頭痛、発疹、消化器症状等の副作用が起こることがあります。

内服にあたっての注意点

下記について確認し、いずれか該当する場合は、拠点病院の専門医に内服について相談して下さい。

□ 妊娠の有無の確認

ツルバダ錠及びアイセントレス錠 400mg は、妊娠初期の胎児に対する安全性が確立されていません。

□ B 型肝炎患者であるかの確認

ツルバダ錠は、B 型肝炎患者が内服を中止した場合、肝炎が悪化することがあります。

□ 腎機能低下があるかの確認

ツルバダ錠は、腎機能の低下した方が服用すると腎機能障害が起こる可能性があります。

内服後について

□ 内服継続の適否について判断、及び感染の有無を評価するために、早めに拠点病院を受診する必要があります。

□ 前述のとおり、感染の有無を評価するために、HIV 検査を複数回、受けることとなります。

説明日　令和　　年　　月　　日

説明者